

観光戦略特別委員会提言書

平成 25 年 9 月

長野市議会観光戦略特別委員会

1 特別委員会の設置及び組織

- (1) 設置年月日 平成23年10月11日
(平成24年 9月25日再設置：調査事項変更)
- (2) 名 称 長野市議会観光戦略特別委員会
- (3) 調査事項 新幹線の延伸を控え、本市の恵まれた観光資源を活用した観光戦略について調査・研究を行う。
- (4) 委員構成 (委員9名)

委員長	寺澤和男	(長野市議会新友会)
副委員長	宮崎治夫	(長野市議会新友会)
委員	小泉一真	(無所属)
委員	竹内重也	(長野市議会新友会)
委員	近藤満里	(公明党長野市議員団)
委員	三井経光	(長野市議会新友会)
委員	倉野立人	(改革ながの)
委員	金沢敦志	(無所属)
委員	小林義和	(日本共産党長野市会議員団)

2 長野市観光の現状と課題

観光旅行者の需要の多様化、少人数による観光旅行者の増加、観光分野における自治体間競争の一層の激化等により、観光を取り巻く環境は著しく変化している。

本市においては、平成の大合併により新たな観光資源を有することとなったが、近年の観光客入込数は、善光寺御開帳の年を除きおよそ1,000万人台で推移している。善光寺一点型の観光形態だけでなく、周遊・滞在型、体験・交流型の観光形態を更に強化することが、本市観光の課題となっている。

このような中、市では、平成23年10月に長野市観光振興計画である新1200万人観光交流推進プランを新たに策定し、テーマ別キャンペーンを初め、本市最大の観光地である善光寺と、ブランド化に取り組んできた地域を結び付けることなどにより、観光客を増やし、また、滞在時間を延長することを目指し、平成24年度は、ながの「四季の彩り」キャンペーン、平成25年度は、

「体験！長野道場」キャンペーンを行うなど、各種事業を展開しているところである。

平成27年に予定されている新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳に向けて、現在、JR東日本による長野駅善光寺口への新駅ビルの建設、本市による長野駅善光寺口駅前広場の整備が進められており、信州観光の玄関口にふさわしい長野駅となるよう期待されている。

本委員会は、平成23年10月に、本市の恵まれた観光資源を活用した観光戦略について調査研究を行うため設置された。平成24年9月の再設置以降は、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略として、重点的調査事項を大きく三つのテーマに絞り、調査研究を行ってきた。

一つ目は、ハブとしての長野市の戦略として、本市を拠点とした広域観光、滞在型観光の推進、新たな観光資源の掘り起こし等である。

二つ目は、人材育成として、観光行政スペシャリストの人材育成等による市観光戦略室の主体性の発揮、市民観光ボランティアの育成、長野市民全体のおもてなしの推進である。

三つ目は、新たな情報発信媒体の活用、北陸新幹線の動向調査等である。

本委員会は、できる限り観光分野の現状を把握するため、長野おもてなし推進ネットワークと長野商工会議所女性会の関係者、JR東日本長野支社の社員、長野広域連合事務局の職員、ながの観光コンベンションビューローの職員を、それぞれ参考人として呼びし、意見をお聴きするとともに、先進地の取組を視察するなどの調査を行ってきた。

以上の調査研究に基づき、新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略を展開するために本市が取り組むべき事項として、次の3及び4の項目について提言し、これらの事項を各事業に取り入れ、早期に実施するよう提言するものである。

3 新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略に関する提言

新幹線の金沢延伸は、新幹線開業以来、終着駅であった長野駅が通過駅になるとの懸念がある一方で、北陸・関西方面から本市へのアクセスが向上することから、多くの観光客を誘客できる絶好の機会でもある。長野市観光動向調査結果においても、首都圏のみならず、北陸方面から本市への立ち寄りの意向が多いため、誘客の促進に向け積極的に取り組むことが必要である。

(1) 周辺自治体との協力について

新幹線延伸は、沿線エリア全体が発展するような戦略が重要であり、互いの地域が新幹線延伸のメリットを生かせる、享受できるような広域観光連携を構築し、展開すること。

(2) 長野駅の利便性の活用について

長野駅は東京・金沢間の中間に位置すること、また、長野駅においてJR東日本とJR西日本の乗務員が交代するとの一部報道があり、全列車が停車することが見込まれることから、その強みを生かして、首都圏、北陸・関西方面からの観光客の増加につながるような観光商品の開発などに向け、観光関連事業者等と連携を図ること。

(3) 長野駅のハブ化について

長野駅のハブ駅としての役割が向上することが予想されるため、市内の各観光エリアの連携のみならず、広域観光ルートを想定し、二次交通の利便性の向上に向け交通事業者等と連携を図ること。

(4) 長野駅の新駅ビルの活用について

長野駅の新駅ビル内に、本市の土産、特産品の拠点となる店舗あるいはエリアを設けることにより、本市の土産、特産品の情報を発信することができることから、その実現に向けて働き掛けを行うこと。

一方で、新駅ビルで土産を購入する観光客が増えるだけで、市全体に効果が広がらないのではないかと心配する意見もある。そのため、地元商店の活性化に向けた施策の展開を図ること。

(5) 新幹線の呼称等について

新幹線の長野開業から15年が経過し、長野新幹線の呼称が定着していることを踏まえ、金沢延伸後も「長野」を残すことで、東京から長野を經由して北陸へ、大阪から北陸を經由して長野・軽井沢へといったルートが明確化される。これにより、利用者にとって分かりやすい路線となり、沿線

エリア全体の魅力が向上し、路線全体の利用拡大につながる。

このことから、新幹線の呼称等に何らかの形で「長野」を残し、また、長野発着の列車名に「あさま」を残す活動を引き続き行うこと。

4 新幹線の金沢延伸を見据えた観光戦略を展開する上で取り組むべき施策に関する提言

(1) 新たな観光資源の掘り起こしと既存観光資源の新たな魅力の発掘について

ア 観光商品をつくる仕組みの構築

本市観光が新鮮で、かつ、他の自治体との違いを生むために、観光資源の掘り起こしから観光商品化、旅行業者への素材の提供まで、ながの観光コンベンションビューロー等の関係機関と連携を図り、一貫した仕組みを構築すること。

また、女性の視点や、学生など若年層の新鮮な発想を取り入れること。

さらに、先進地視察を行った田辺市熊野ツーリズムビューローでの成功事例などを参考にして、本市でも、ながの観光コンベンションビューローのインターネットサイト等から着地型商品を独自に販売する施策を検討すること。

イ 長野ブランドの強化

長野らしい、長野でしか買えないブランド商品（土産品等）を推奨する仕組みづくりを積極的に推進すること。

ウ 食の充実

本市のそば、おやきなどの地元名物料理あるいはリンゴ、桃、ブドウといった果物などの特産品を活用し、観光客に本市の食の魅力、四季折々の旬の味覚を提供する施策を関連事業者と検討すること。

エ ターゲットを絞った誘客手法

年代別、性別、個人・団体別のそれぞれに応じた観光ルートの設定を行い、ターゲットを絞った誘客手法に取り組むこと。

また、物見遊山的な観光だけでなく、例えば子育て家庭向け、外国人観光客向けなど観光客の特性に応じた体験メニューの充実に取り組むこと。

オ スポーツコンベンション誘致等の推進

国際大会や全国的な競技大会、スポーツ合宿などのスポーツコンベンションについて、スポーツを観光の視点から捉え、これらの誘致活動の推進を図ること。

また、本市で開催される会議、集会、研究会などのコンベンションへの参加者に、本市の魅力をより知ってもらうため、地域の文化、歴史、自然などに関して専門家から説明を聞き、参加者も意見を交わすという現地視察、いわゆるエクスカージョンを、コンベンションと併せて行うよう、会議等の主催者など一層の連携を図ること。

(2) 観光情報の発信と観光案内について

ア 長野市観光情報センターの充実

長野駅に設置されている長野市観光情報センターは、新幹線延伸後、首都圏からの観光客に加え、北陸・関西方面からの観光客が増え、観光情報センターの利用者が増加することが見込まれる。

今後予定されている観光情報センターのフロア拡張と観光情報提供の機能強化にあわせ、職員の増員と開館時間の延長を行うこと。

また、インバウンド対策として、外国人観光客の誘致が好調なことから、より一層の誘客を図るため、外国語の多言語化への対応を検討すること。

イ 新たな情報発信媒体の活用

フェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス、いわゆるSNSを活用し、国内外への観光情報の発信に一層取り組むこと。

ウ イベントの開催

新幹線延伸については、多くの報道機関が全国に情報を発信するため話題性がある。新幹線延伸に向けたイベントを行うことは効果が高いため、例年以上の予算を確保してイベントを開催すること。

エ 観光案内表示の整備

長野駅から中心市街地周辺の観光案内表示については、例えば表示板の形や文字を大きくしたり、トイレの標識に共通マークや外国語表記を取り入れたりするなど、観光客にとって分かりやすい観光案内表示となるよう、より一層の整備を図ること。

(3) 人材育成について

ア 観光行政スペシャリストの育成

観光振興課に設置されている観光戦略室が更なる主体性を発揮するため、観光行政に熱意と専門性を持った人材を配置、育成するとともに、民間との交流や渉外折衝ができる人材の育成を図ること。

イ 市民によるおもてなしの推進

民間団体において、市民によるおもてなしの向上を図る活動が行われている。本市を訪れる観光客への温かいおもてなしは、観光都市としての魅力を高め、本市に何度も訪れていただくことにつながることから、民間団体との連携と、その活動に対する支援を検討すること。

ウ 市民観光ボランティアの育成

本市をより深く、より楽しく知っていただくためには、地元の語り部として市民観光ボランティアが果たす役割は大きい。長野市善光寺表参道ガイド協会の設立など着実に市民観光ボランティアの育成に取り組んでいるが、引き続き、市民観光ボランティアの活動を積極的に支援し、人材の育成を図ること。

(4) 広域観光連携の推進について

ア 多様な広域観光の連携

信越観光圏、北陸新幹線停車駅都市観光推進会議等の広域観光連携に加え、立山・黒部アルペンルート、上高地、軽井沢などから本市へ、あるいは本市からそれらの地域への広域観光ルートを想定し、より多くの観光客に本市を訪れていただけるよう関係機関との連携を図ること。

イ インバウンド対策の強化

アメリカやオーストラリアなど英語圏からの誘客の促進に加え、北陸はアジア各国からの空路が直結しているため、新幹線延伸の効果を生かし、富山空港や小松空港に着く外国人観光客を誘致するインバウンド対策の強化を図ること。

ウ 都市協定を締結した自治体とのより緊密な連携

集客プロモーションパートナー都市協定については、上越市、金沢市、甲府市、静岡市、富山市の他、本年8月には福井市と締結しており、その内容は、相互にポスター、広報紙等に観光情報を掲載することなどである。

また、北陸新幹線停車駅都市観光推進会議の取組は、共同プロモーションの実施をその主な目的としている。

これらの取組は、一定の評価はできるものであるが、新幹線延伸後には沿線エリアとの更なる連携が必要になることは言うまでもない。交流人口の増加を図るため、広域観光ルートの設定、観光商品の共同開発など、より踏み込んだ施策の展開を図ること。

エ 長野駅東口バス待機場の活用

長野駅東口バス待機場を最大限に活用し、観光バスや貸切バスを生かした広域観光の推進を図ること。

(5) その他

ア 事業効果を意識した施策の実施

観光分野における事業効果の測定というものは非常に難しいことではあるが、観光キャンペーン事業など各種事業の目標値の達成度あるいは事業効果を意識し、施策の実施に努めること。

イ 長野駅周辺の工事期間中における観光客への配慮

現在、JR東日本による長野駅善光寺口への新駅ビルの建設、本市による長野駅善光寺口駅前広場の整備が進められているが、工事期間中に本市を訪れる観光客が不便な思いをすることがないように、工事案内表示、観光案内表示等については十分配慮すること。

理事者においては、これらの事項を各事業に取り入れ、早期に実施するよう要望するものである。

平成27年の新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳は、本市に何度も訪れてもらう、また、本市に立ち寄ってもらう絶好の機会である。

長野らしさを一層追求し、本市の観光に更に磨きをかけることによって、地域経済の活性化につながるよう、大いに期待するものである。

5 調査研究の経過

番号	開催年月日	調査事項等
1	平成24年 9月25日	・正副委員長の互選
2	10月17日	・委員会の調査事項について
3	11月9日	・重点的調査事項について ・観光戦略について
4	12月11日	・長野おもてなし推進ネットワークについて（参考人意見聴取）
5	平成25年 1月28日	・新幹線の金沢延伸を踏まえた観光戦略について（参考人意見聴取）
6	1月30日 ～2月1日	・行政視察（田辺市、堺市、大阪市）
7	3月11日	・地域食材を使用した商品開発について（参考人意見聴取） ・ながのブランド郷土食について
8	4月18日	・平成25年度の主要な観光関連予算及び事業について
9	5月31日	・新たな観光資源の掘り起こし、既存観光資源の新たな魅力の発掘等について（参考人意見聴取） ・市民観光ボランティアの育成について（参考人意見聴取）
10	6月14日	・北陸新幹線の呼称等に「長野」を残す活動について ・長野市観光動向調査報告書について
11	7月29日	・観光情報発信の取組状況について ・提言に盛り込む事項及び内容について
12	8月26日	・提言書（案）の調整、確認について
13	9月13日	・観光戦略に関する提言について